

# 『型枠施工業務』

## 安全衛生のポイント

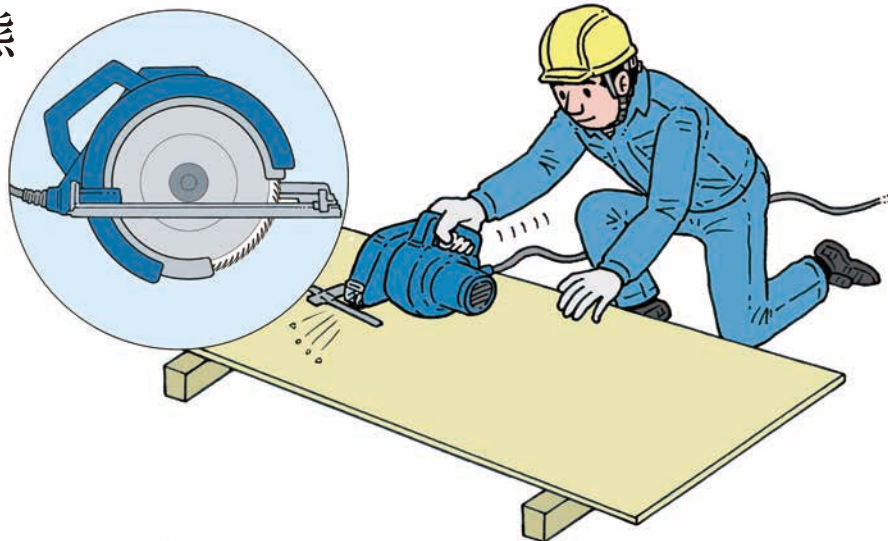
### 電動器具の取扱い

#### (1) 携帯用丸のこ盤の取扱い

■ 丸のこ等取扱い作業従事者教育を受講しましょう。  
※資格作業(特別教育に準ずる教育/携帯用丸のこ盤取扱い作業従事者教育)

■ 作業開始前に、始業前点検を行いましょよう。

1. 歯の損傷、各所ボルトやネジの確認
2. キャブタイヤの切れ、損傷の有無
3. カバーの戻り状態
4. ブレーキの状態



#### 守るべきこと

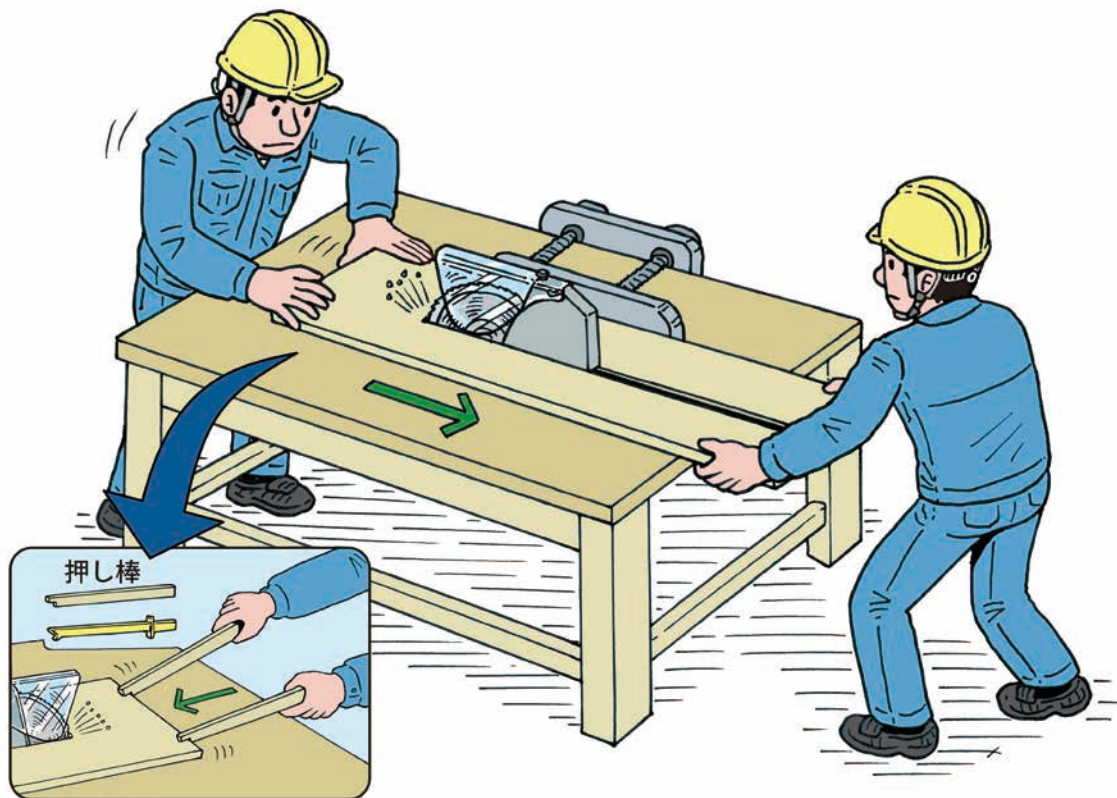
- ①安定した台の上で作業しましょう。
- ②巻き込まれるおそれのある軍手は着用してはいけません。
- ③異音が発生したら作業を中断しましょう。
- ④ケーブルの位置を確認してから切断を始めます。
- ⑤丸のこを移動させるときは、電源を切ります。
- ⑥切れ具合が悪くなった歯はすぐ交換しましょう。

## (2) 丸のこ盤の取扱い

丸のこ等取扱い作業従事者教育を受講しましょう。

作業開始前に、始業前点検を行いましょよう。

1. 歯の損傷、各所ボルトやネジの確認
2. キャブタイヤの切れ、損傷の有無
3. カバーの戻り状態
4. ブレーキの状態



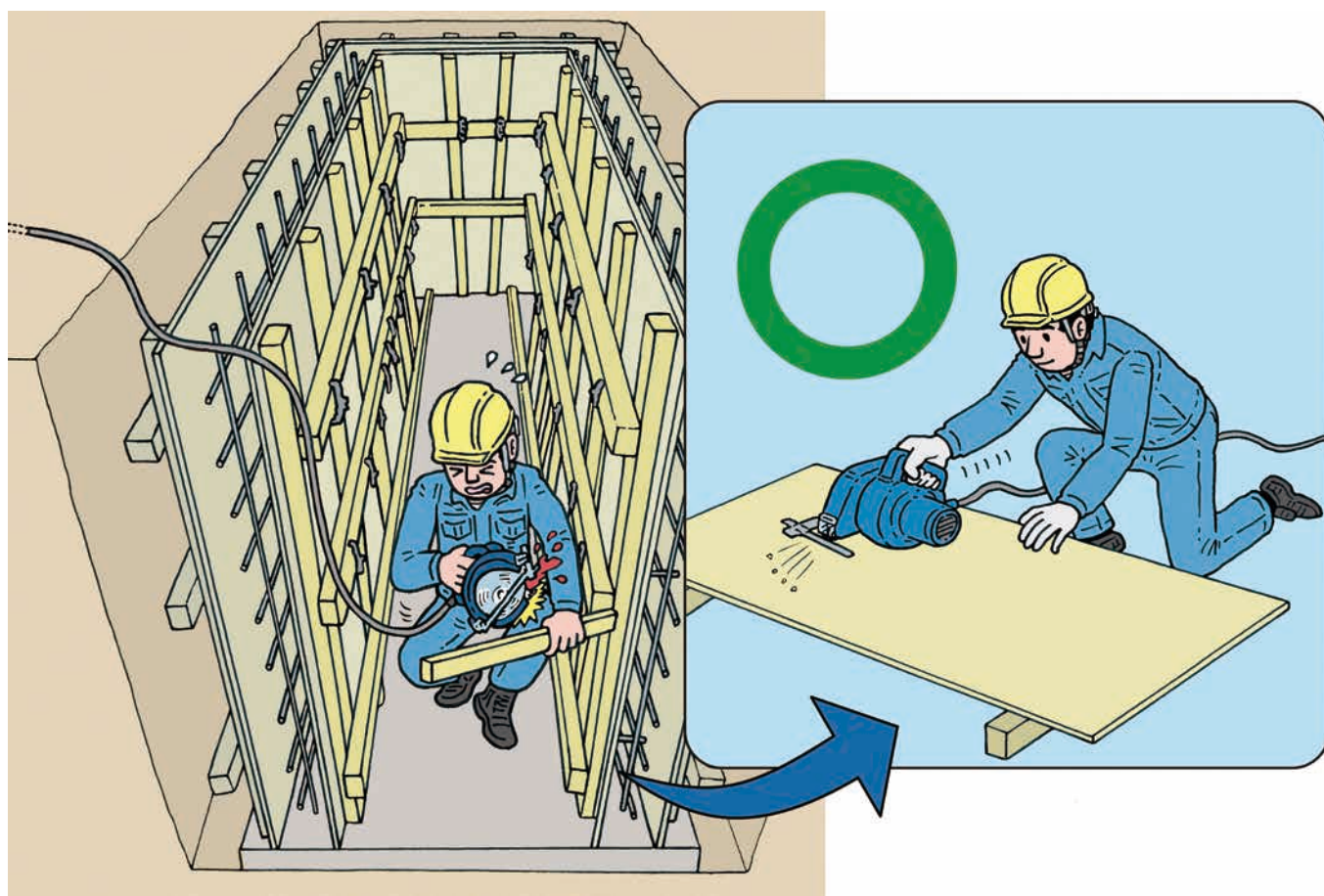
### 守るべきこと

- ①安全カバー付近に手を近づけないようにしましょう。
- ②長尺物は2人で作業を行いましょよう。
- ③切れ具合が悪くなった歯はすぐ交換しましょよう。
- ④狭いものを切断するときは押し棒を使用しましょよう。

### (3) 丸のこ等災害事例

#### 事例

型枠内で手直し（箱入れ）するため、携帯用丸のこを使い切断中、誤って自分の大腿部を切ってしまった。



#### 守るべきこと

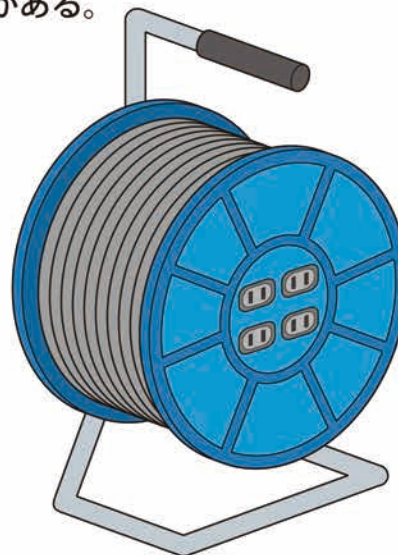
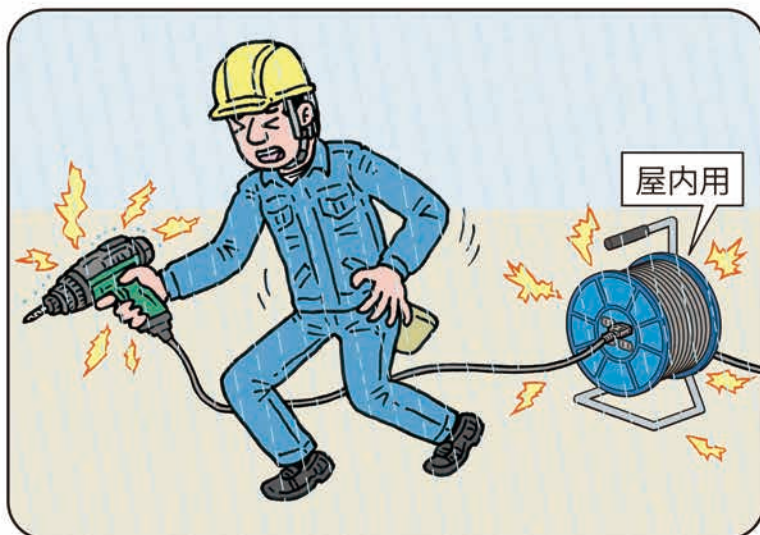
- ①狭い場所での型枠手直し作業は、手持ちのこを使用しましょう。
- ②丸のこを使用するときは、安全カバーが十分作動するよう、点検と整備を確実に行いましょう。
- ③丸のこでの切断は、安定した作業台の上で行いましょう。

## (4) 電工ドラム

屋内用 / 屋外用と分かれていますので、作業場所に応じたものを使用します。雨天時、屋内用を屋外で使用すると漏電する危険があります。



雨天時、屋内用を屋外で使用すると漏電する危険性がある。



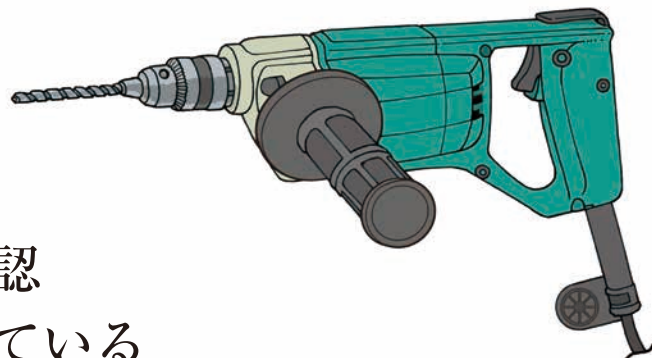
### 守るべきこと

- ①コードは全て引っ張り出し、ドラムにコードが残っていない状態で使用しましょう。
  - ★ドラムにコードが残った状態で使用すると、熱の発散が妨げられ過熱し火災が発生する危険があります。
- ②定格電流を確認し、それを超えないよう使用しましょう。
  - ★定格電流を超えると発熱し火災が発生する危険があります。

## (5) 電気ドリル

作業開始前に、始業前点検を行いましょう。

- ①キリの損傷の有無
- ②スイッチの異常の有無
- ③体の正面で使用、作業姿勢の確認
- ④穴をあける反対側の状態の確認
- ⑤キャブタイヤは3芯を使用しているか、また損傷はないか確認
- ⑥ケーブルの位置の確認



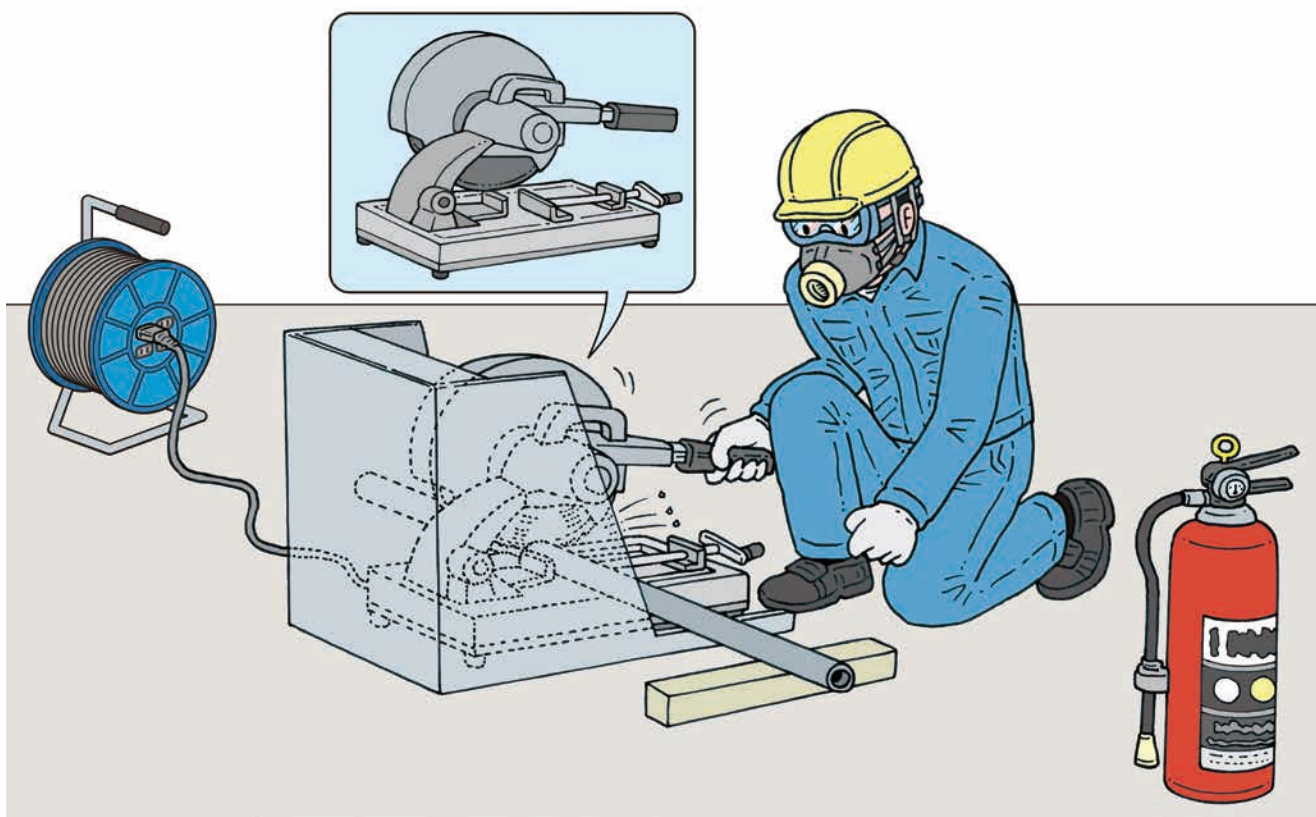
### 守るべきこと

- ①保護メガネを使用しましょう。
- ②使用時に異常な音、異常な振動があったときは使用を中止しましょう。
- ③良い姿勢を心掛けましょう。
- ④使用後はプラグをコンセントから抜きましょう。

## (6) 高速切断機

■ 研削といし特別教育を受講しましょう。

※資格作業（研削といし特別教育）



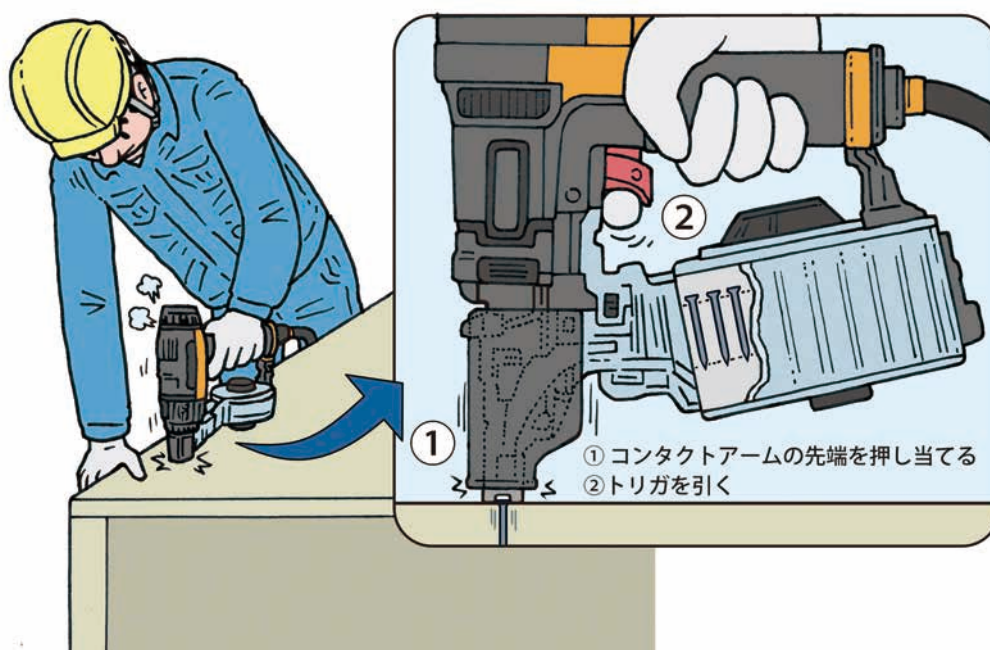
### 守るべきこと

- ①研削といし側面で研磨等をしてはいけません。
- ②切断材をしっかり固定し保護手袋を着用しましょう。
- ③消火器を必ず用意しましょう。
- ④火の粉除けカバーを使用しましょう。
- ⑤研削といし特別教育修了者が作業しましょう。
- ⑥作業開始前、といし取替え後は、試運転を行いましょう。

## (7) 釘打ち機

作業開始前に、始業前点検を行いましょう。

- ①各所の破損、ボルトのゆるみの有無
- ②作業する箇所に電線管や埋設物がないことの確認
- ③周囲の人払いを確認
- ④保護メガネをかけているか確認



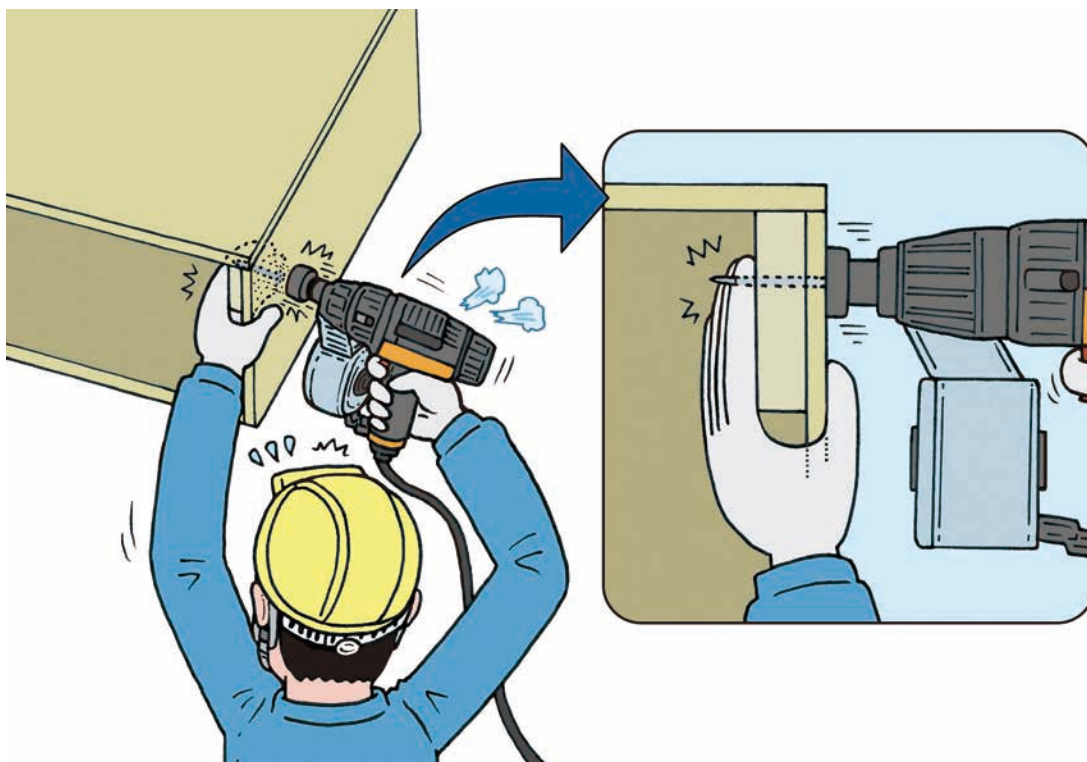
### 守るべきこと

- ①射出口を人に向けてはいけません。
- ②トリガーに指をかけたままタッカや釘打ち機を移動してはいけません。
- ③向かい合っでの作業はしてはいけません。
- ④作業中断時はホースを外しましょう。
- ⑤異常を感じたら使用を中止しましょう。

## (8) 釘打ち機災害事例

### 事例

設備基礎型枠建込作業中、ベニヤが少し浮いたため左手でベニヤと桟木を左手で押さえて釘を打ったところ、反対側に釘が飛び出し、手に刺さり負傷した。



### 守るべきこと

- ①釘を打つ方向に手を置いてはいけません。
- ②釘の長さ、木材の厚みを確認しましょう。